

～ 水の大切さを学ぶ ～

わたしたちが使える水の量はごくわずかです

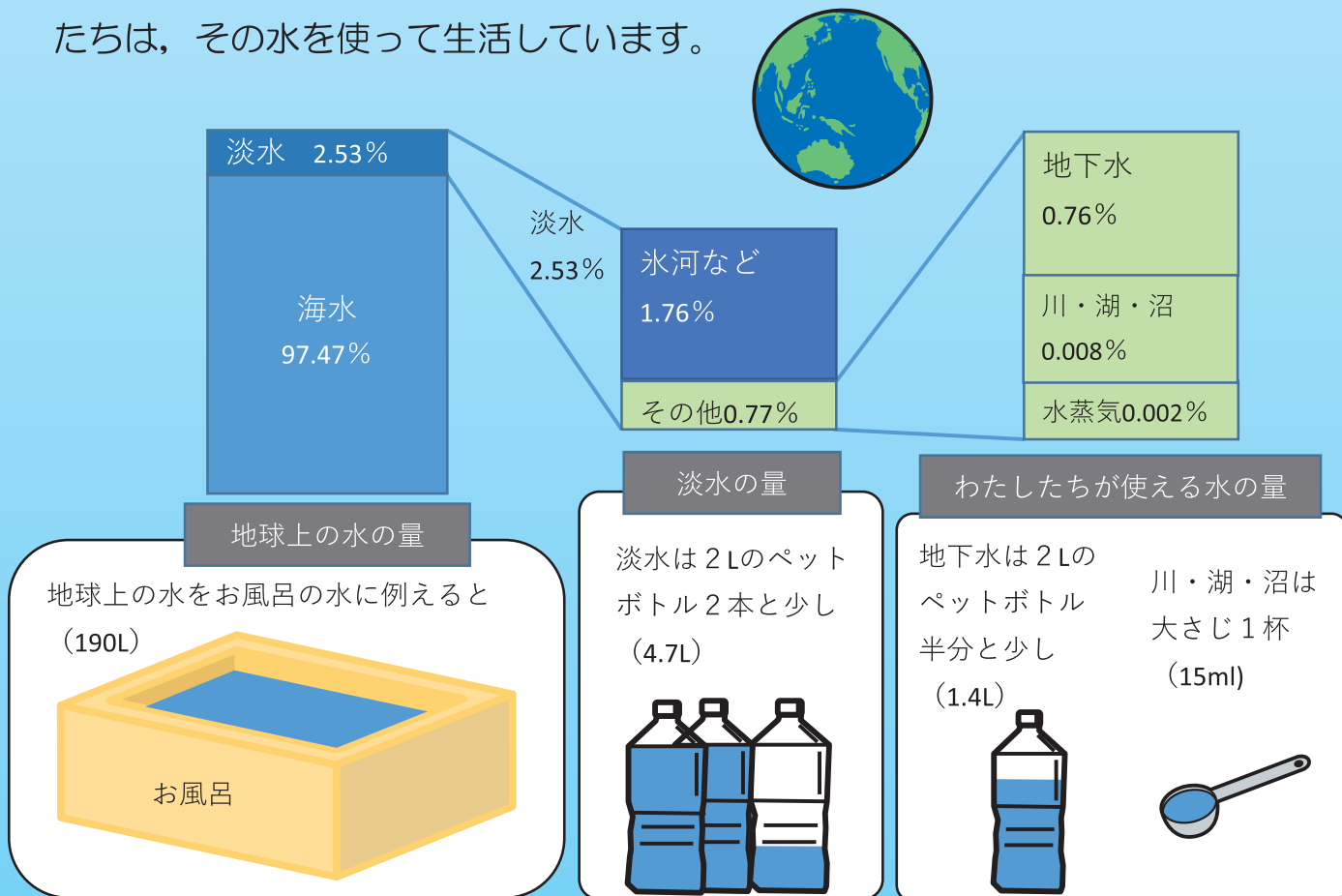
地球は宇宙から見ると青く美しく輝いていることから、「水の惑星」といわれています。

地球の表面の約70%は海であり、水がたくさんあります。

しかし、わたしたちが飲み水などに利用できる、塩分を含まない水（淡水）は、地球上にごくわずかしかありません。

身近なもので例えると、地球上に存在する水の量をお風呂の水1杯分（約190L）とすると、淡水は2Lのペットボトル2本と少し（約4.7L）、地下水は2Lのペットボトル半分と少し（約1.4L）、川や湖、沼などの水は大きじ1杯分（約15mL）しかありません。

水はたくさんあるように見えますが、使える水は少ししかないのです。わたしたちは、その水を使って生活しています。



みずじゅんかん

水循環って何？

生活に使っている水は姿を変えて地上と空をまわっています。

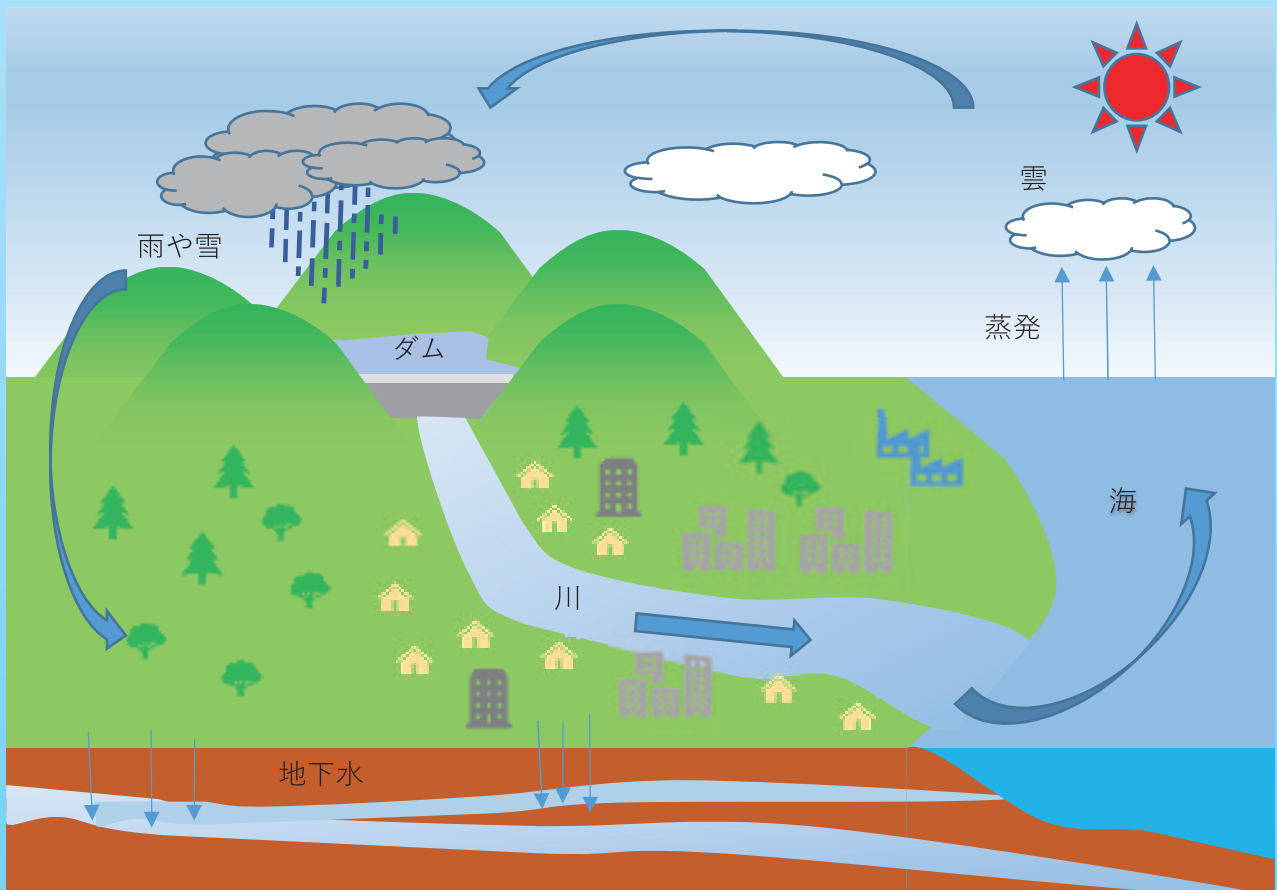
太陽の熱により海の水が蒸発^{じょうはつ}すると、上空で雲となります。

やがて、雨や雪^ふとなって、地上に降り注ぎ、それが集まって川や地下水となって流れて、海にもどります。

この、水が海から海にもどることを「水循環^{みずじゅんかん}」といいます。

生活に大切な水ですが、使いすぎると水が減^へって、お風呂に入れなくなったり、水洗トイレが使えなくなったり、野菜やお米などの農作物^{のうさくぶつ}が作れなくなったりします。

また、汚^{きたな}い水をそのまま流すと、魚などの生き物が生きられなくなってしまうます。そうすると、自然環境^{しぜんかんきょう}が悪くなり、わたしたちの生活^{えいきょう}にも影響します。



地下水も大切な資源しげん

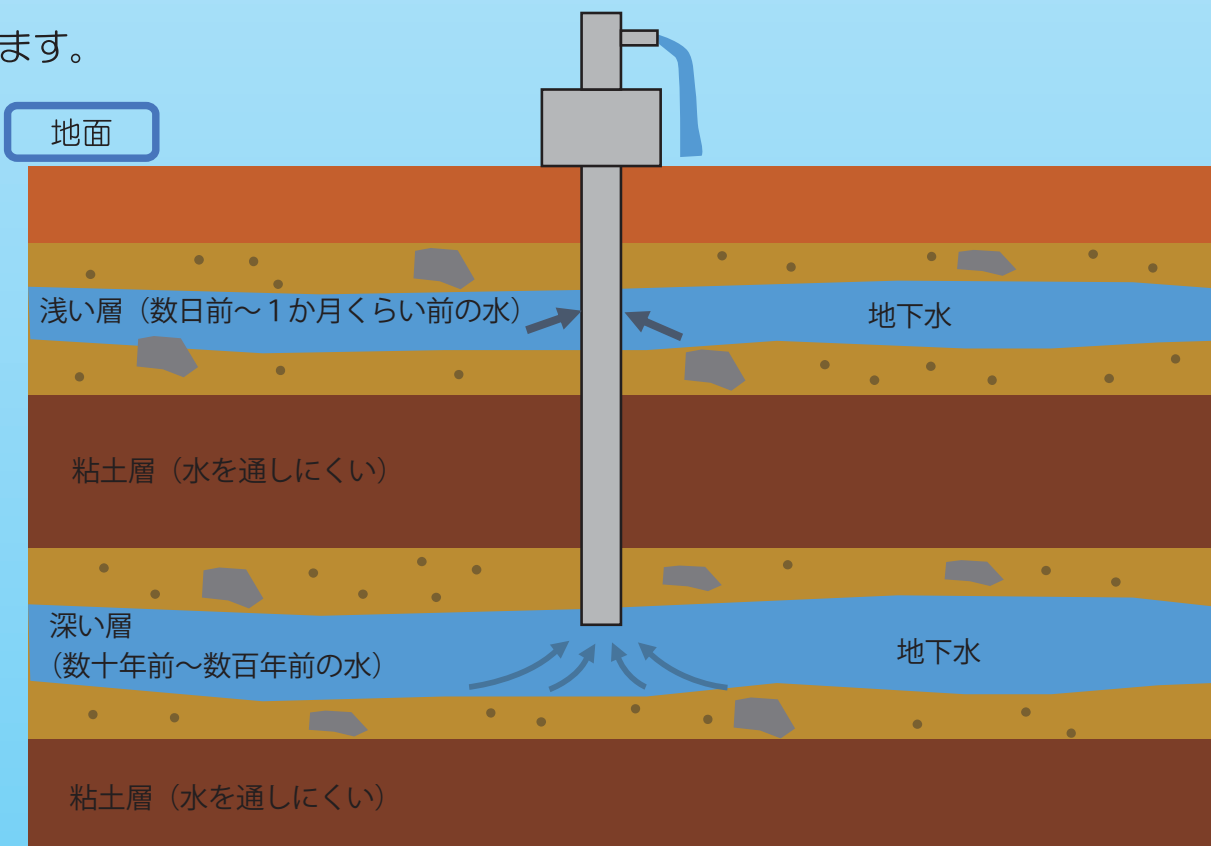
目に見える水には川や湖・沼がありますが、わたしたちの目に見えないところにも地下水と呼ばれる水があります。

地下水は、地面にしみ込んだ雨や雪が、長い年月をかけて、地下の中の砂や石のすき間の中にたまったものです。わたしたちが住む関東平野かんとうへいやでは、地面から約400mくらいまで地下水があります。

地下水は、高いところから低いところに向かって、砂と石のすき間を1日に1メートルから数メートルくらいの速さでゆっくりと流れています。

深い層そうの地下水は、数十年前から数百年前ひに降った雨や雪が時間をかけてしみ込んだものです。

茨城県には地下水がたくさんあることから、昔から井戸を掘って地下水をくみ上げて、生活や農業、工業などに利用してきました。しかし、地下水をたくさん使いすぎると、地下水が減って、地盤沈下じばんちんか（地面の高さが下がること）が発生したり、海水が地下水に混ざりこんだりして、わたしたちの生活に影響えいきょうします。



水の大切さを考える「水の日」

毎年8月1日は「水の日」です。水循環基本法^{みずじゆんかんきほんぽう}において、国民が水循環の大切さについて理解と関心を深めるために定められました。

「水の日」を考えていただくため、「水」を連想させるブルーのライトアップ^{れんそう}が全国で行われており、茨城県内でも行われています。



水戸芸術館

8月1日の1日限定のライトアップです。全国的にライトアップをしているから、近くにあった時は見てね♪

写真提供：水戸市



写真提供：高萩市



水戸市水道低区配水塔

高萩市役所(庁舎東側)

水についてもっと知りたいときは
独立行政法人水資源機構HP内 水の週間実行委員会「雨雲当番ボタン」へ →



編集・発行

茨城県政策企画部水政課

〒310-8555 水戸市笠原町978-6 TEL 029-301-2625 FAX 029-301-2629

(令和5年2月発行)